



山口県ろうあ連盟だより ～第53号～

発行所/〒747-1221 山口県山口市大字鑄銭司南原2364-1
山口県聴覚障害者情報センター内 一般社団法人 山口県ろうあ連盟
発行者/赤井 正志 FAX.083-963-4380 TEL.083-986-2818

第63回全国ろうあ者大会inぐんま 3265人でにぎわう



▲結成の記念碑の除幕式

「つどえ連盟発祥の地ぐんま! 誓い合おう 更なる飛翔を!」をテーマに、6月10日～14日まで群馬県前橋市のヤマダグリーンドームで第63回全国ろうあ者大会が開催され、山口県から赤井正志さんら6人が参加しました。全国各地から3200人を超える仲間が集いました。



▲看板前で記念撮影

なして全て自ら手話でスピーチされました。厚生労働省の方も頑張って手話で挨拶されました。大会式典、聴覚障害者に関する分科会、アトラクション、前夜祭、青年のつどい、高齢者のつどい、写真入賞作品展等を楽しむ参加者でにぎわいました。(T)

全日本ろうあ連盟主催の手話言語法制定を求め、8月27日、東京で開かれました。集会には、山口県ろうあ連盟・桜井洋五郎副理事長と通訳を兼ねて山口県手話通訳問題研究会・藤井豊会長の2人が参加しました。

27日は、国会議員に対する要請活動が中心です。桜井と藤井は、山口県選出の国会議員(衆議院議員5人、参議院議員2人)の議員事務所を訪問し、手話言語法の趣旨、県内の意見書採択の状況等を説明し、手話言語法が早期に制定されるよう協力をお願いしました。特に高村正彦氏、榎屋敬悟氏両衆議院議員には、ご本人に直接会う機会に恵まれました。自民党副総裁・高村氏訪問の際は、全日本ろうあ連盟の石野富志三郎理事長も同席されました。高村議員は「まず議員に働きかけてほしい。動いていただければ私も支援することについては私も尽力したい」と話されました。榎屋議員は「手話言語法は大きなうねりの中にある。このうねりの時期を大事にしてほしい」と強調されました。

手話言語法制定を求める全国集会開催 国会周辺でデモ大行進



▲手話言語法の必要性を訴えて歩く参加者



▲パレードの先頭を歩く団体役員ら

28日は、参議院議員会館で決起集会を開催後、日比谷公園↓官公庁↓国会議事堂等をコースとする街頭パレードを行い、約1000人の参加者がプラカード等をかかげ、手話言語法の制定を訴えました。(S)

県ろう連女性部教養講座

新聞エコバックづくり等に夢中



▲手づくり教養講座が楽しかったですよ!

ンダー、新聞エコバックを作りました。皆一生懸命作って出来上がりを見てうれしそうでした。カラクリカレンダーは作る時、とても不思議な感じがしました。どんな風に出るかワクワクしました。カラクリカレンダーは手品を見ているようでとても楽しかったです。

6月24日(水)、周南市にある新南陽総合福祉センターでいろいろな手づくりの教養講座がありました。作品は3つあって、針金とんぼプローチ、カラクリカレン

生は手品がとて上手な男性で休憩の間にも手品をしていただき、あつという間の4時間でした。(W)



▲新聞エコバック

山口県聴覚障害者教育フォーラム開催

初の試みとして大好評!

8月31日(日)、県ろう連としては初の試みとなる「山口県聴覚障害者教育フォーラム」が宇部市総合福祉会館で開催されました。「聴覚障害学生にとって学びやすい環境とは?」というテーマの下に、午前は講師・甲斐更紗氏をお招きし、臨床心理等の観点からお話を、午後は当事者・教育関係者の各立場から



▲教育フォーラムの様子

パネルディスカッションをそれぞれ行いました。初の試みゆえに内容は多少難解な点もありましたが、全体的に評判も良く、また、次

回も開催してほしい等の意見もいただけたことから大成功を収めることが出来ました。今回のフォーラムを通じて、課題は残ったものの、県ろう連としても教育関係者や親との関係が以前よりもすつきりと構築されてきたと思っております。今回参加出来なかった大学関係者や行政関係者とも関係を構築し、様々な面からアプローチを行い、忌憚なき意見交換を重ねていくことで、山口県の聴覚障害教育の充実につなげていくことが出来ればと考えています。(Y)

第49回全国ろうあ者体育大会in京都
山口県チーム22年ぶり団体優勝

9月19〜20日、第49回全国ろうあ者体育大会in京都(第28回ボウリング競技)がしようざんボウルで開催され、全国各地から239名の選手が参加しました。選手は各レーンに分かれ、個人優勝、団体優勝をめざして熱戦が繰り広げられました。

団体戦では、一日目の前半はレーンが難しく11位でしたが、二日目の後半に入ると、みんなの調子も上がり、メンバー平均200ピンアップの成績を収め、山口県チームは逆転優勝しました。22年ぶり団体優勝を飾りました。



▲団体優勝旗

「チームワークのおかげで優勝できました。連覇をめざし、次回も頑張りたいです」と貞国主将が話しました。優勝旗は県聴覚障害者情報センターの受付前に置いてあります。(A)

第24回文化教養講座が開かれる
熱く語られる講演!

11月1日(日)、萩市の萩地域医療連携センターで「第24回文化教養講座」が開催され、各地から51名が参加しました。「中国と日本のろう文化の違いについて」というテーマの下に、午前は講師・陸祁(りくき)氏(ろう者)をお招きし、生い立ちとともに中国のろう文化を始め、中国手福祉制度、就業状況、中国手



▲講演する陸祁氏

話等々日本との違いを2時間にわたってお話いただきました。参加者も興味津々で聞き入っており、午後からのトークショーでは進行の合間合間に多くの質問が投げかけられました。積極的に異国の文化に触れてみたいという気持ちが見てとれたことから、成功と言えたのではないのでしょうか。異国のろう文化をテーマに、昨年度はフランスのろう文化、そして今年度は中国のろう文化を企画してきました。来年度についてはテーマを含め未定ですが、引き続き参加者の知的好奇心をくすぐるような企画を準備できればと思います。(Y)



▲団体優勝：山口県チーム